

# AMAKURU Rwanda

#2



-Ukwazi Kwa Gatandatu-

青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊

ルワンダ派遣 (2018/3~)

コミュニティ開発 (水の防衛隊)

野田 恵莉



Mwiriwe! (こんにちは!) 2018年3月末より東アフリカの赤道直下に位置するルワンダ共和国に派遣されている野田恵莉(のだえり)です。

東部県ンゴマ郡ムラマセクターに赴任して1か月半が経ち、村にも顔見知りが増えつつ増えました。さて今月は、私の活動、任地の暮らしについて紹介します。

## ----- 私の活動「水の防衛隊」について -----

私は、コミュニティ開発という職種で「水の防衛隊」として派遣されています。水の防衛隊は、住民のきれいな水へのアクセスや水衛生啓発をサポートすることなどが期待されています。

私の職場は、首都キガリから車で約3時間、いくつもの丘を越えたところにあるムラマセクター事務所(日本でいう市役所。)赴任してからは、まず、住民がどこから水を得ているのか、どんな暮らしをしているのかを確かめに、村へ出かけています。

### ----- ムラマセクター概要 -----

- 面積：437.8 km<sup>2</sup> (≒ 愛知県新城市)
- 人口：26,137 人 (2018 年 5 月)
- 構成：5つのセル(町)、44の村
- 標高：集住地は1500mくらい
- 特産物：バナナ、メイズ、豆



📷：配属先のムラマセクター事務所

## ----- 住民の暮らしと水 -----

ムラマセクターの多くの村では水道が普及しておらず、多くの住民は給水所、井戸水や湧水を使って生活しています。住民は丘の尾根に集住しているため、水を得るにも一苦勞。丘のふもとにある井戸や湧水まで片道30分以上、灯油タンクのような容器「ジェリカン」を頭に載せて、1日数回汲みに行くのが日常です。

これからやってくる乾季は、給水所の水や水道の水不足が待っており水の値段も上がります。ある地域では、通常 20RWF/20ℓ から 200RWF ≒ 約 30 円/20ℓ に！きょうだいが何人もいるような大家族が1日過ごすのに、手洗い、料理、洗濯、風呂など…どれだけ水が必要か想像してみてください。



📷：湧水にてジェリカンで水を汲む子ども。



📷：毎日山登り山下り。滑りやすく急な崖路にもかかわらず、サンダルで楽々と進んでいきます。

-----故障した井戸の修理に立ち会う-----

毎日の生活に欠かせない水を得ることができる「井戸」なのですが、井戸が壊れても修理する人やお金がないと、誰も手を付けず修理されないまま放置されてしまいます。しかし、住民は数キロ遠くても別の湧水や井戸に水を汲みに行くことができるので、水を得られなくなるわけではありません。目の前の蛇口をひねれば水が出てくる日本人が見たら、すぐにでも直さなきゃ！となるのだろうなあとと思いつつ、費用面で修理対応できる仕組みが村に整っていないのが現状です。

ある日、道を歩いていると故障した井戸を発見！この井戸は数年壊れたまま放置されていたそうです。そこで、まず村人や修理工を呼び、水が出ない原因を突き止めました。後日、村人をたくさん集め、いざ修理！試行錯誤しながら朝から10時間に及ぶ作業をしました。



📷：部品がないなら、あるもので作る！井戸のパイプを切断したので、接続部分づくり。火であぶり、ビール瓶を入れ広げ、冷して固めます。



📷：水が出た瞬間、みんなの顔がパーッと明るくなりました！

定期的なメンテナンス不足、老朽化、誤った使い方をすることで井戸は簡単に壊れてしまいます。住民による維持管理が持続的に進んでいくためにはどうすればいいのか。これから彼らと一緒に考えていきます！

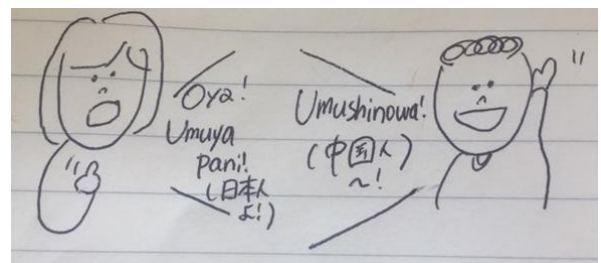


📷：村人と記念写真。

----- ルワンダ人のあいさつ -----

最近、道を歩けば、「Eri〜！」とあちら、こちらから、私を呼ぶ声。

でも、こんなこともしばしば…



さて、ルワンダ人のあいさつですが、とっても距離が近いのです！右・左・右と、ほほを寄せ、ハグし合うのがルワンダ流。

簡単なあいさつは、「Muraho! (こんにちは)」 「Amakuru? (元気?)」と握手を交わします。手が汚れているときは、腕と腕のタッチ！いったい一日、何回握手をしているのだろう…？

ちなみに、このニュースレターのタイトルに使われている“Amakuru”は、“ニュース、出来ごと”という意味です。

では、来月もお楽しみに。Murabeho! (またね！)